

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホームゆい八木沢

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200376		
法人名	合同会社ライフサポートゆうゆう		
事業所名	グループホームゆい八木沢		
所在地	〒027-0031 岩手県宮古市八木沢四丁目5番33号		
自己評価作成日	令和4年2月5日	評価結果市町村受理日	令和4年5月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

4月に開所致しました。ホーム近隣に同事業所のグループホームが運営しており、お互いのホームへの行き来もありほっこりとする繋がりがあります。家庭的な雰囲気の中で、利用者様お一人お一人に合わせたご自分のペースで動いていただけるよう心掛けております。その方の得意とする家事活動などでは、食事の準備、味見、配膳、下膳、洗濯物たたみなど可能な限りその方に合わせた内容をお手伝い頂いております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海岸沿いの国道から入った住宅地に立地し、近隣に県立短大がある。同一法人が運営するグループホーム、デイサービスセンター、訪問介護、居宅介護支援事業所と道路を挟んで、昨年4月に開設した。既存の施設と地域との交流の基盤は出来ていたが、コロナ禍の中での運営開始で、地域との交流が全くできずにここまで来ている。行事や外出に制限が多い中でも、感染予防に注意しながら、定期通院に同伴する家族との外食や職員とのミニドライブなどを楽しんでいる。自立度の高い利用者が多く、趣味や特技を生かし、生きがいや役割りを持って日々を送ることができるよう支援している。開設間もない事業所であるが、職員の意欲や向上心が高く、隣接施設との協力、連携の体制も整っており、今後の介護サービスの充実や地域との繋がりの構築が大いに期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年3月24日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティングで唱和し、常に心に留めるようにしています。介護理念はホールに掲示しております。	本年度の開設に当たり、7年前から同じ法人が運営する隣接の先達グループホームの理念を踏襲し、当ホームの理念として定めた。理念の精神を具体の介護実践に繋げるよう、職員間の話し合いを進めている。	今後、「その人の歴史」「尊厳」「寄り添い」「見守り」等、理念のキーワードを踏まえ、一人一人の個別、具体的な支援目標を設定するなど、介護現場で、理念が実践に繋がるような「介護計画」の策定が期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルスの影響で地域との行事は、交流が機会が持てておりません。	コロナ禍の中での開設であり、地域との交流ができない状況で経過している。隣接姉妹ホームは、「地域交流室」を設け地域に開放するなど、コロナ前から地域交流に力を入れており、当ホームとしても、コロナから解放され次第、積極的に地域との繋がりを構築したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣に同事業所のゆうゆう茶屋があり、地域の方も利用できることを紹介しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、運営推進会議は行わず、文面での報告をさせていただいております。	隣接姉妹ホームの委員を当ホームでもお願いしているが、両ホームとも、書面による運営状況の報告に止まっており、当ホームとしては、まだ一度も会合の形で開催出来ていない。運営状況の報告に加え、開設以来の課題や、運営上のテーマなどについて、姉妹ホームとも協議しながら、意見や提言を書面で聴取することを検討したいとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括職員の方も関わりを頂いている。市町村担当者とはメールや電話での連絡を頂いております。	市の担当者から報告を求められたり、情報提供の連絡がある他、地域包括支援センターと日常的に連携している。開設以来、メールや電話による連絡が主になってきたが、市担当課に出向き、顔の見える関係づくりに努めたいとしている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホームゆい八木沢

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で「身体拘束ゼロへの手引き」を施設内研修で勉強する機会を持っております。身体拘束を理解しスピーチロックを再確認、意識するようにし身体拘束のないケアに努めています。	職員全員による「身体拘束対策検討委員会」を、2カ月毎に「職員会議」の後に開催している。「重要事項説明書」により、利用者や家族に原則身体拘束を行わないことを説明している。委員会で、身体拘束や行動抑制に繋がる言動について、繰り返し確認、注意し合っている。虐待や権利擁護についても研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての所内研修を行い、虐待の定義、実態、対策などについて学ぶ機会を設け、虐待防止に努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所されている方で権利擁護を利用されている方はおりません。今後研修する予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には、家族や利用者に不安が残らないように説明。疑問があった場合にはその都度説明、理解を頂くように努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に外部の苦情、相談の窓口を説明しております。家族の来訪時に要望や意見を伺うようにしております。	利用者からは、日々の生活について要望等を確認しているが、食べ物へのリクエストが多い。コロナ禍の中でも、家族が定期通院に同行しており、2カ月に一度は来所する機会を逃がさず、意見を聴取している。これまでのところ、特に運営に関する要望は出されていない。毎月生活の様子をお便りで知らせているが、双方向の情報交換ができるよう工夫をしたいとしている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議の際、日々の申し送りの場で何か問題が起きた場合には、話し合いの場を設けて職員からの意見・要望を聞く機会を設けております。	職員会議、日々の申し送りの際、運営等について職員から意見が出される。管理者に個別に要望が出される場合もある。運営母体の代表は、職員と個別に面談する時間をつくり、特に職員に欠員が生じた際には、一人一人に就業状況を確認するなど、勤務条件の改善に努めている。また、資格取得支援の制度化を検討するなど、職員の資質向上にも力を入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きやすい環境づくりを常に考えて努力していただいています。年に1回は代表社員を含めた役員と職員の面談を行い、就業環境については個別に話し合いをしております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会議後に研修を実施。外部研修ではコロナ禍のため、参加は数少ないものとなりました。訪問看護より研修会も開催され受講できた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修会、勉強会に参加し情報共有に努めています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に耳を傾け環境に慣れるまでには傍に付き添い、必要に応じて家族より協力を頂き、生活に慣れて安心して生活できるよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族より情報や意向を聞きより良い関係を築けるよう努力しています。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時に本人、家族より情報を頂きカンファレンスを行い、サービス内容を検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者より「手伝いますか」と声をかけてくださることがあり、配膳、下膳、茶碗拭き、洗濯たたみ等の日課を一緒に行っております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回、ホーム内での様子を伝える手紙を送っています。通院時の付き添いをお願いしたり、利用者の対応について家族に相談しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルスの影響で面会や外出機会が少なくなりました。隣のグループホームゆうゆうの利用者とはテラスに出た際に声を掛け合ったり、お互いのホームに行き来することもあります。	定期通院の帰路、同行した家族と馴染みの美容室に寄ったり、外食を楽しむなど、コロナ対策に留意しながら、可能な限り、これまでの生活と繋がりのある活動をしてもらうようにしている。隣接の姉妹ホームから入所した2人の利用者は、時折、遊びに行き、旧交を温めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のお互いの関係を把握した上で、食事の席替えをしています。利用者同士で声を掛け合い、手伝おうとされたり、また不安を訴える方の話を聞いて寄り添ってくださる方もあり良い関係が築けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関へ入院されサービス終了後の利用者にも、今後のサービスなどについて、相談に乗り支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中などから本人の思いを把握し、本人より直接声を聞くようにし、聞き取りをするようにしています。	自分の思いや希望を言葉で伝えてくれる人が多く、買い物の希望が多い。午前中のレク活動や午後のおやつの時間に会話を通じて希望や思いを把握している。折り紙や編み物等、得意なこと、好きなことへの取り組みや、茶碗拭き、掃除等の役割をお願いするなど、その人の思いや意向に沿い、意欲が生まれる暮らし方を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話の中からこれまでの過ごし方や習慣などを知り継続できる部分は維持できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日3回バイタルチェックを実施。食事と排泄チェック表で身体の調子や排泄のリズムを確認。ケース記録では午前・午後・夜間帯の様子やその時の言動について記入しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が、本人・家族の意向を確認し計画を作成。毎月の所内会議で介護計画を職員に確認してもらい、ケース検討の機会をもうけています。	利用者毎に担当制を採っており、毎月の職員会議に引き続き、担当職員のモニタリングをもとにしたカンファレンスを行い、本人の状況と計画に齟齬がないか、全員で話し合っている。短期3カ月、長期6カ月の計画について、見直し、継続の検討を行っている。「生活の質向上の支援」、「体調管理の支援」を計画の柱としている。	元気な利用者が多く、職員側からの視点による介助や体調維持を中心とする介護目標に加え、その人らしい暮らしができるよう、本人と話し合い、一人一人が意欲を持って取り組める「暮らしの目標」(趣味や役割)を具体的に介護計画に設定し、働きかけを行うことが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別の日誌を記入し、気づいた事はミーティングノートに記入。職員間の情報共有を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族のその時々々の要望に臨機応変に対応できるよう努めています。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流会は開催されておらず、参加できておりません。今後地域の方よりお聞きしながら楽しむことができるようにしていきたいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はかかりつけ医を継続されており、通院時にはホームでの様子を主治医へ報告して頂いています。体調などで気になる時にはかかりつけ医で電話相談しています。	利用者は、全員が入居前からのかかりつけ医に通院している。コロナ感染防止対策を講じてもらいながら家族同伴をお願いしている。バイタルチェックや体調を「通院報告書」にまとめ、家族に持参してもらい、適切な受診になるよう努めている。「訪問看護ステーション」に委託し、週2回、相談、助言、指導を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化・情報などがあれば、訪問看護と連携・相談し、専門医の受診や指示を受けています。急変時などには、適切な指示を頂けるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	緊急時に対応できるように利用者の情報を医療機関に提供できるように利用者情報を作成。通院時にもホーム内の様子を文章で報告しています。管理者と医療機関との入院時連携が取れるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りを行えることを説明しています。看取りの実績はありません。終末期のあり方について職員が本人や家族と話ができるように努めます。研修予定です。	利用開始時に、本人、家族に対し、医療が必要になるなど、施設としての対応が難しくならない限り、希望により重度化や看取りに対応することを口頭で説明している。嘱託医や訪問看護ステーションから協力を得ることとしているが、医療連携体制として明文化していない。看取り経験のある職員がおらず、現在は、看取り対象になる利用者はいないものの、今後に向け、終末期対応の研修に力を入れたいとしている。	重度化や終末期に対応するホームの方針を「重度化・終末期への対応指針」として明確に定めることが必要です。特に嘱託訪問医師、看護師との連携については、約定を取り交わしておくことも必要と思われます。重度化、終末期に向け、家族、医師、看護師、職員等の関係者が連携して取り組む体制づくりを期待します。

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習、訪問看護より急変時の対応の研修を受け、実践力をそれぞれ身につけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回避難訓練を実施。火災、水害の日中・夜間を想定した訓練を実施しております。	ホーム独自に、開設間もない4月に消防署立ち合いで火災避難訓練を実施したほか、2カ月に1回、火災、水害、地震、夜間等、想定を変えて訓練を実施している。災害時の避難場所として、市内の高台にある特別養護老人ホームと提携を結んでいる。コロナ禍の中で、地域、近隣との連携、協力が難しい状況にあるが、協力をもらえる仕掛けづくりを検討したいとしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は個浴。排泄時、入浴時の介助や見守り、居室へ訪問する際には利用者に声掛けしてから行うようにしています。	理念に「尊厳」を掲げており、折り紙や編み物等の趣味、洗濯物の整理や食事の準備、後片付け等の役割などを自己決定しながら、その人らしく暮らしていけるよう支援している。入浴時の介助や見守り、居室への入室の声がけの際には、プライドを傷つけたり、プライバシーを侵害しないよう留意しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の着替えやその日に着る洋服を本人に選んで頂き職員と一緒に用意しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間を特に決めておらず、本人のペースで過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通院時や外出時には、衣類をできるだけ本人から決めて頂いています。散髪を希望される方があり、散髪を頼んでいます。		



令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味見、盛り付け、配膳、下膳、おしぼり用意、茶碗拭きなどもその方に応じた内容を職員と一緒に行って頂いています。	調理を兼務する職員が中心になり、生協の宅配、週1回の買い出しで用意した食材を見ながら献立を考え、調理している。誕生会の行事や季節に合わせ、ちらし寿司、お汁粉、唐揚げ、郷土食の「けえばご飯」等、利用者の希望のメニューが提供される。介助を必要とする利用者もおらず、3卓の食卓で職員も加わり、楽しい食事時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量はそれぞれの一覧表にて確認している。その日の体調に合わせて食べやすい状態で提供している。好き嫌いを把握し、制限のある方には別献立を提供し配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き・うがいを促している。なるべく自分のできる部分を促して行っていただくようにしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁する前にトイレに行けるように排泄チェック表を確認して声掛け促しています。日中・夜間とも声掛けしてトイレ誘導しています。	車いす利用者を除き、全員がトイレを使用している。自立排泄が5人、見守りが3人で、布パンツ使用の3人以外は、リハビリパンツにパットを使用している。夜間も、声がかけて自分でトイレに向かう。パットを外すことを目指すなど、改善に向けた取り組み支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルトを毎日提供しています。水分・食事量・便秘の有無を確認。体操を皆と一緒にし、自主的に歩行練習され、便秘予防に繋がっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきに入浴できるようにしております。拒否される場合には時間を置いて再度声掛けしますが、無理をせず他の方に声を掛けて入浴していただくようにしております。	週4日、午前中の中入浴を基本としている。シャワー浴の車いす利用者以外は、着脱の手伝い、手の届かない部分の洗い、見守りを中心に支援を行っている。菖蒲湯による季節感や入浴剤による温泉気分を味わってもらっている。職員にとっても、利用者とは1対1でリラックスした中で、いろんな話を聴ける貴重な時間としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様にはなるべく日中に活動して頂き、夜間にぐっすりとお眠れるようにしております。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をファイルにまとめ、職員がいつでも見れるようにしています。服薬とバイタルチェック表を用いて症状の変化を確認。訪問看護には通院時薬変更なった際には情報共有をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業、花の手入れ、洗濯たたみ、編み物など自身の得意なことや興味のあることを先生になって頂き、職員とともにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候をみながら散歩、ドライブなどを行っております。	コロナ禍の感染防止のため、外出の機会が減っているが、家族付添いの定期受診後の買物、近所のお地藏さんのお参りを兼ねた散歩、少人数のミニドライブによる自宅周辺、市役所跡地公園、海辺の散策等、できる限り外の空気を吸う機会を多くつくるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によって自己管理されている方もおります。希望時にはお金を使えるように支援しています。利用者より買い物希望があれば、その都度職員対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはやりとりができるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度を確認し温度は23~25度、湿度は40~60%になるようエアコン・加湿器を使用調整しています。	明るいベージュ系の壁紙と木目調の床で落ち着いた雰囲気の間と食堂になっている。エアコンとFF暖房機で冷暖房が調整され、ウッドデッキからは柔らかな光が差し込む。食堂には広めの3卓の食卓が置かれ、また、居間にはゆったりと座れるソファが配置され、利用者はそれぞれテレビを見たり、おしゃべりをしたり、好きなことに取り組みながら、寛いだ時間を過ごすことができる共用空間になっている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、その時の気分で好きな場所に座り、テレビを見たり、会話をされたり、編み物をしたりと思いいいに過ごせています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとチェストは各部屋に備え付けてあります。誕生日カードや塗り絵作品を飾ったり、家族写真を飾っている方もおられます。	ベッド、チェスト、エアコンが備え付けになっており、衣服は、季節毎に家族が入れ替えをしてくれることから、簡素ですっきりした居室になっている。テレビやCDプレイヤーを持ち込んだり、家族写真や自分で作った塗り絵などの作品を飾り、それぞれ好みに合った居心地のいい部屋づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床面には段差がありません。居室の扉が少し開けにくい方には、お手伝いしております。廊下の手すりを使用し歩行練習をされています。		